

ごみ組成分析調査結果について

(1) 調査概要

【家庭系ごみ】

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
地域	城西地区	一大地区	相馬地区	東地区	文京地区	石川地区	北地区
住所	南城西	駅前、大町	紙漣沢	未広	富士見町	石川、大沢	青山
集積所の形態	ステーション方式	毎戸方式	ステーション方式	収納枠 (実証実験中)	毎戸方式	ステーション方式	ステーション方式
想定条件	住居地域	商業地域	農村地域	住居地域	学生居住地域	郊外地域	住居地域
採取量	204.5kg	201.1kg	206.1kg	201.2kg	203.2kg	201.0kg	203.8kg
収集時間	18分	44分	25分	15分	36分	32分	13分

【事業系ごみ】

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
調査場所	弘前地区 環境整備 センター	南部清掃 工場	南部清掃 工場	弘前地区 環境整備 センター	弘前地区 環境整備 センター	弘前地区 環境整備 センター	弘前地区 環境整備 センター
採取量	210.5kg	202.6kg	213.7kg	209.2kg	207.6kg	217.0kg	211.8kg

(2) 調査結果

【家庭系ごみ】

■ 「厨芥類（生ごみ）」

- ・ 8月44.5%、9月45.5%、10月58.5%、11月44.8%、12月36.7%、1月43.6%、2月42.8%と、4割以上を占める月がほとんどとなっている。
- ・ 傾向としては、農村地域での調査となった10月の割合が高く、単身世帯が多く調理を行う頻度が少ないと思われる学生居住地域での調査となった12月の割合が低くなっている。
- ・ いずれの地域においても4~5割近くを占めており、更なる削減余地があると思われることから、市民に対する3キリ運動（※）や残り物の活用などの普及啓発を図る必要がある。
- ・ 厨芥類のうち「未使用（未開封の食品等）」が占める割合は、約2割となっている。

※3キリ運動・・・食材を使い切る「使いキリ」、食べ残しをしない「食べキリ」、ごみを出す前に水を切る「水キリ」の3つの「キリ」に取り組む運動のこと。

■ 「紙類」

- ・ 8月18.5%、9月27.3%、10月22.1%、11月26.3%、12月36.0%、1月30.6%、2月23.7%と、おおよそ2~3割程度となっており、燃やせるごみに占める割合は厨芥類に次いで高い傾向にある。（8月実施分のみプラスチックの割合の方が高い。）

- ・ 紙類の内訳として、段ボールや紙パック、新聞・チラシ、雑がみ等のリサイクル可能な古紙類の混入が多く見られた。家庭系ごみに占めるリサイクル可能な古紙類の割合は、8月4.7%、9月12.4%、10月10.4%、11月9.0%、12月6.5%、1月15.2%、2月6.6%であった。

■ 「不燃ごみ」

- ・ 「不燃ごみ」の混入率は概ね1%以下になっていた。(1月実施分のみ2.1%)

■ 「その他」

- ・ 収集時間について、従来の毎戸地域に収納枠を検証している11月実施分については、毎戸収集地域での調査である9月・12月実施分より大幅に収集時間が短縮しており、毎戸収集地域に収納枠を活用していくことは、収集効率の面で一定の効果があることが示された。

【事業系ごみ】

■ 「紙類」

- ・ 事業系ごみに占める「紙類」の割合は、8月40.0%、9月56.2%、10月41.8%、11月27.7%、12月44.3%、1月61.0%、2月66.6%と非常に高い。
- ・ 「紙類」の内訳として、段ボールなどのリサイクル可能な古紙類が多く見られた。事業系ごみに占めるリサイクル可能な古紙類の割合は、8月29.7%、9月21.0%、10月30.8%、11月21.1%、12月18.3%、1月14.1%、2月34.0%であった。特に段ボールの割合が多く、8月と10月のように20%を超える月もある。そのため、オフィス町内会の周知などを通じて、事業者に対して適正排出を促す必要がある。
- ・ 1月は「紙おむつ」が38.1%と高い割合を占めており、老人福祉施設からの排出が多かったものと考えられる。

■ 「木類」

- ・ 8月、9月、10月は「木類」の割合が高くなっていた(8月14.4%、9月15.3%、10月34.6%)。しかし、「木類」の内訳では9月は「草・わら」が多く14.5%となっていたが、8月と10月は「その他木製品(割りばし、鉛筆等)」が多く(8月14.4%、10月20.3%)、「木類」の内容は月により違いが見られた。

■ 「厨芥類(生ごみ)」

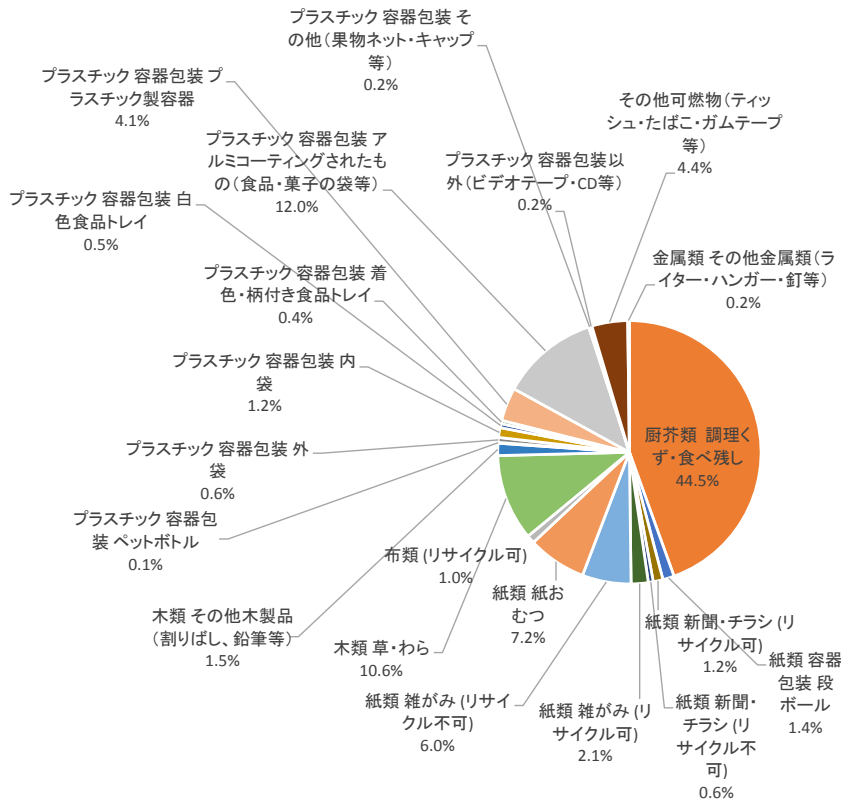
- ・ 11月実施分については、「厨芥類(生ごみ)」がごみ全体の48.3%と非常に高く、食品関連事業者から排出されたごみが調査対象に入っていたと考えられる。内訳としては、「未使用」が26.0%、「調理くず・食べ残し」が22.3%となっていた。そのため、食品関連事業者に対する排出抑制・再生利用等を推進する必要がある。

■ 「その他」

- ・ 「布類」は8月実施分が41.0%と非常に高く、縫製加工業から出る布類の多さが要因であった。
- ・ 「プラスチック製容器包装」は、9月18.0%、10月9.8%、11月16.5%、12月19.3%、1月9.0%、2月14.4%と高く、さらに12月実施分については、本来容器包装で処理すべきペットボトルも3.2%混入していたことから、排出事業者・収集運搬許可業者への更なる分別意識の向上が求められる。

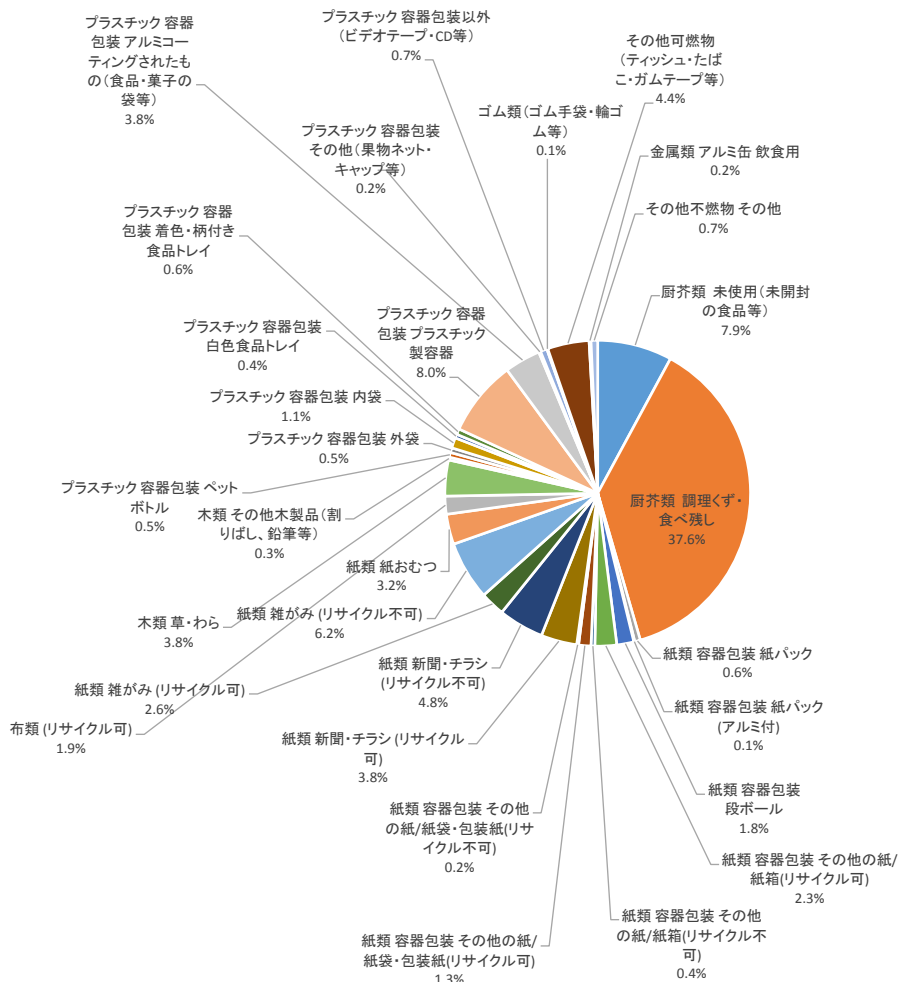
【家庭系・8月分】

家庭系(8月分)



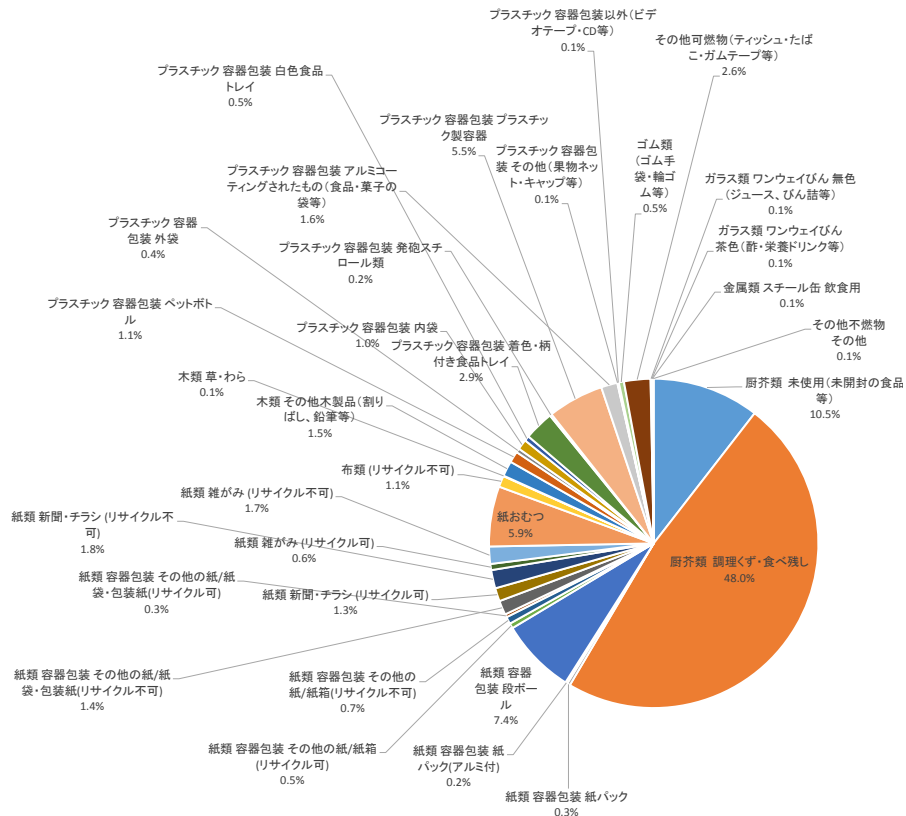
【家庭系・9月分】

家庭系(9月分)



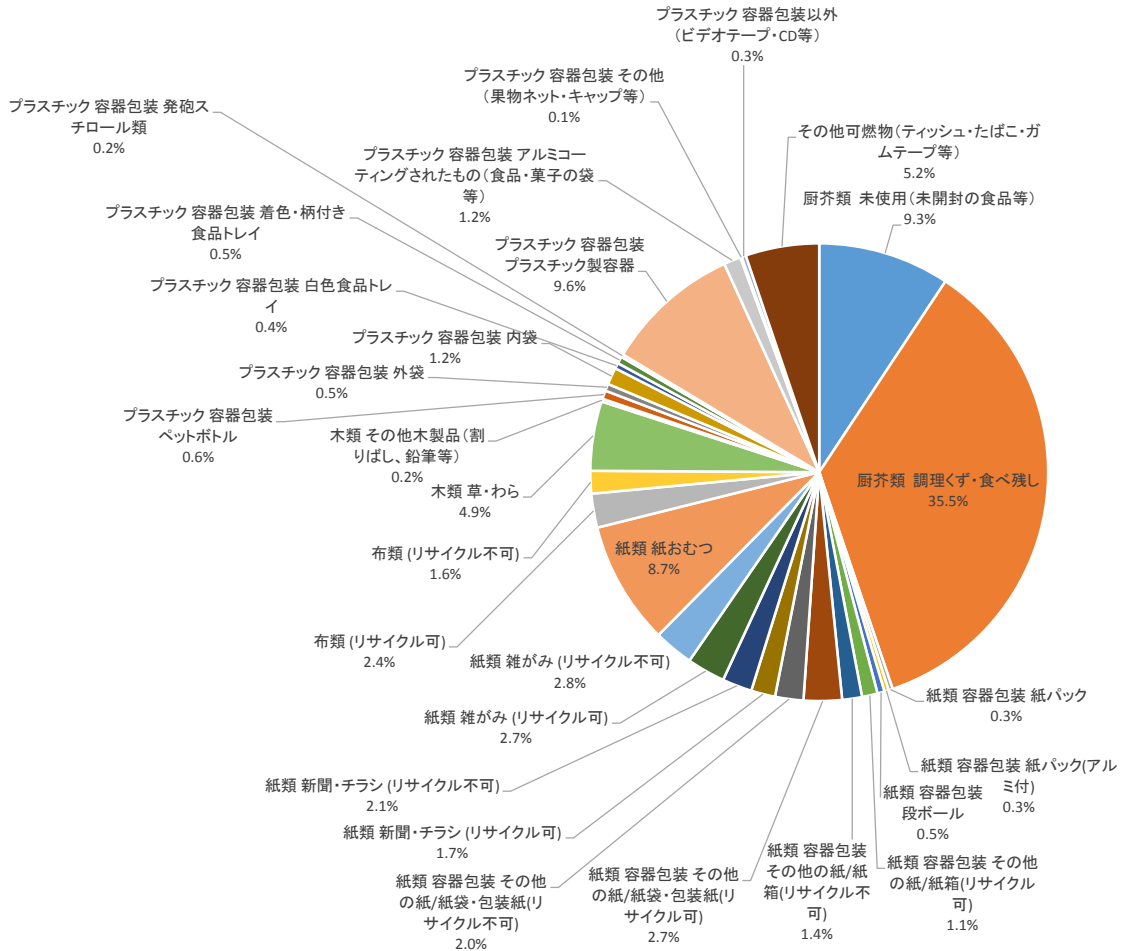
【家庭系・10月分】

家庭系(10月分)

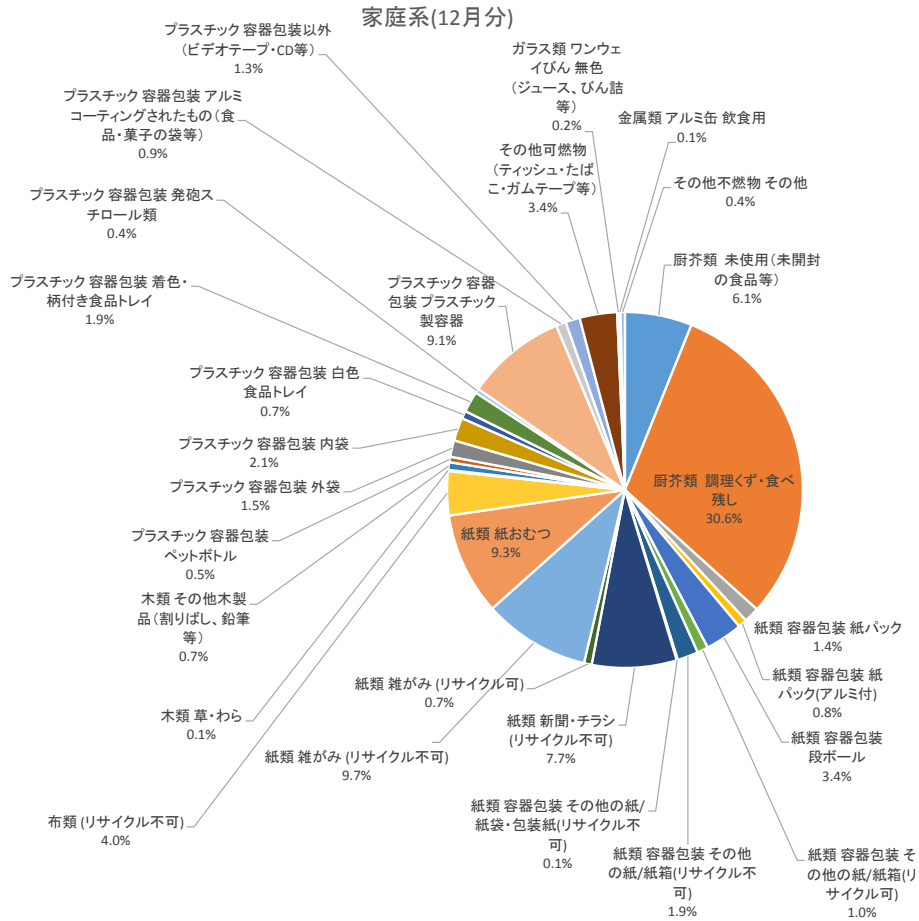


【家庭系・11月分】

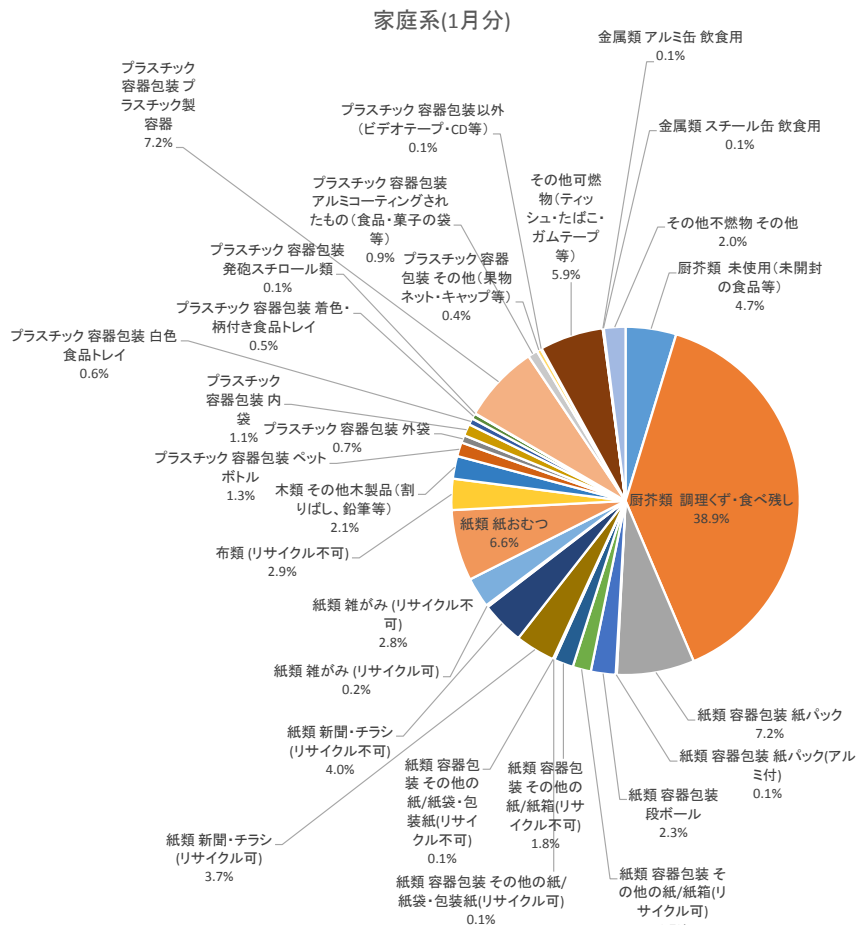
家庭系(11月)



【家庭系・12月分】

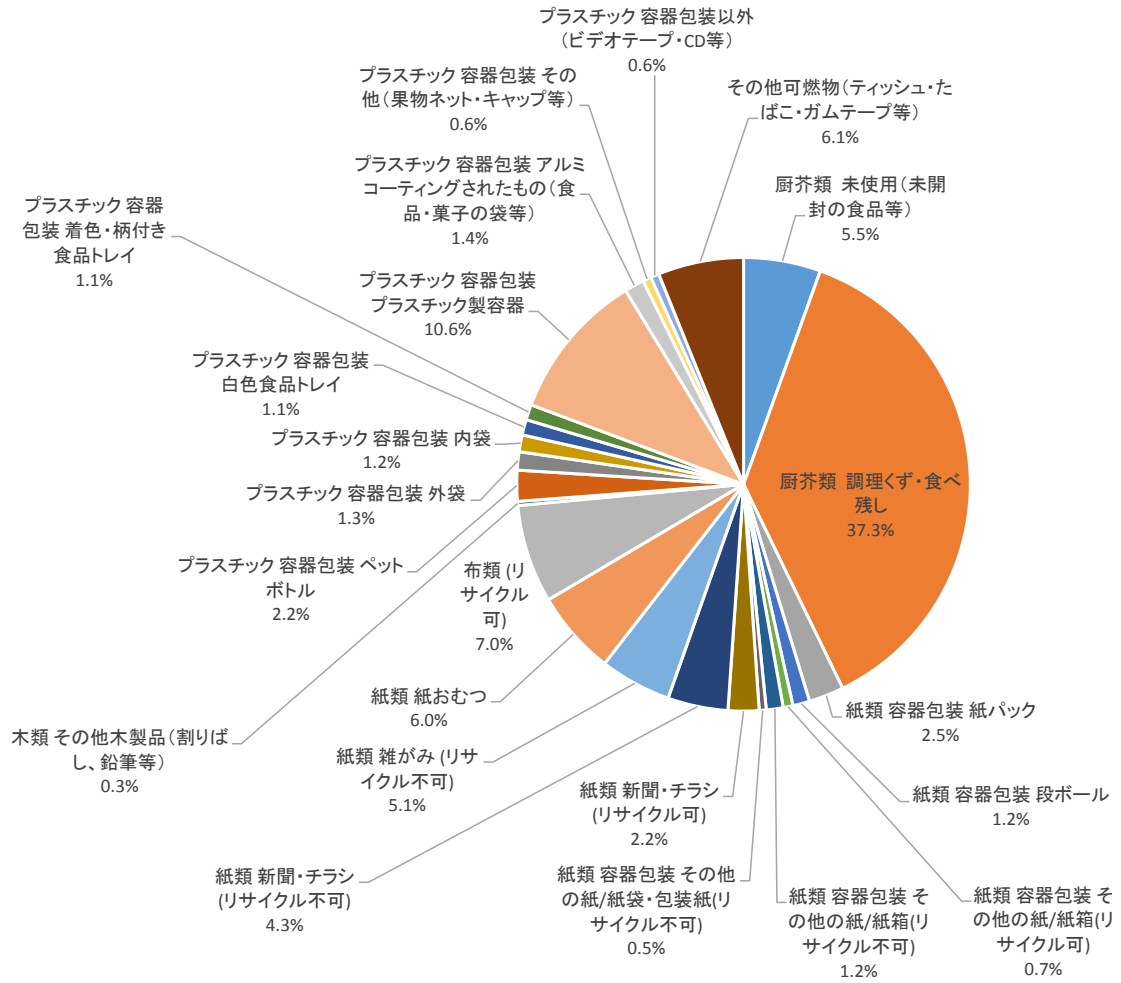


【家庭系・1月分】

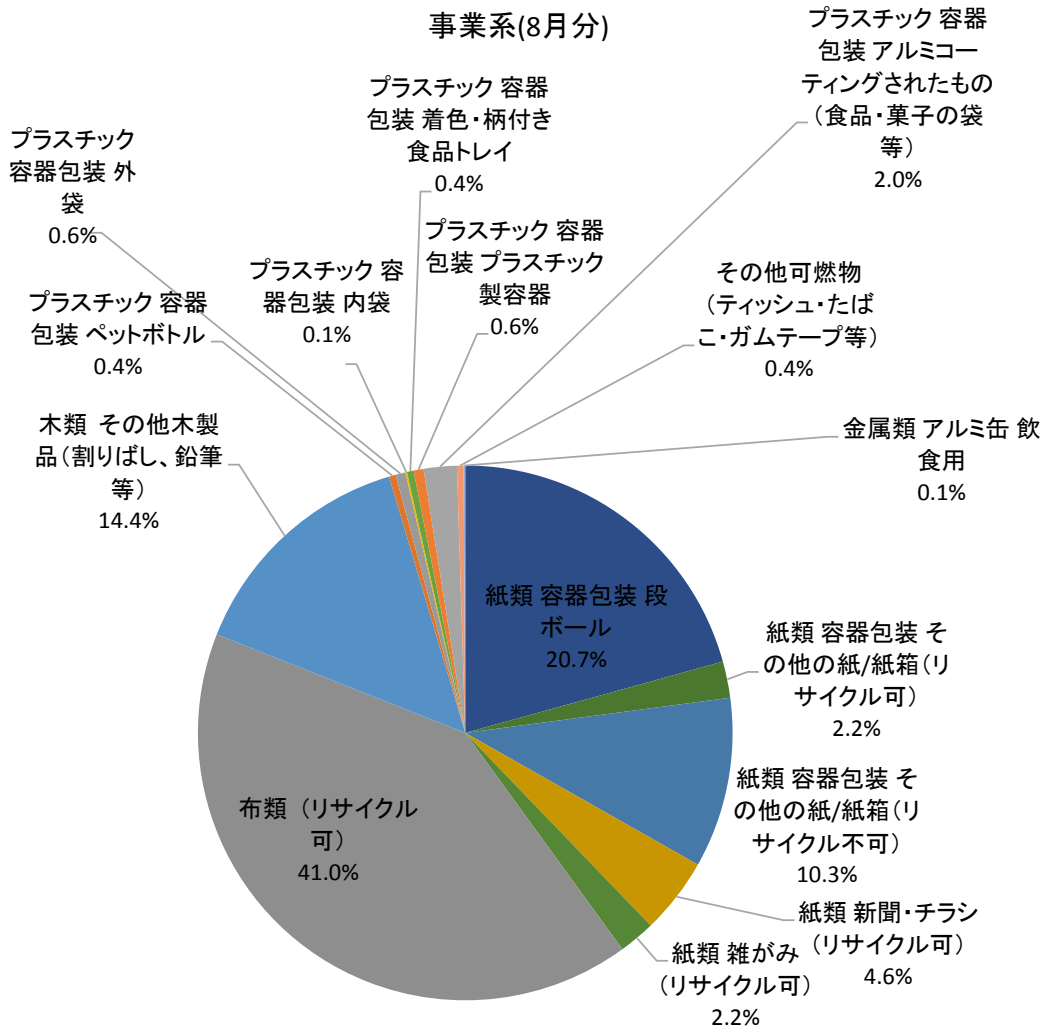


【家庭系・2月分】

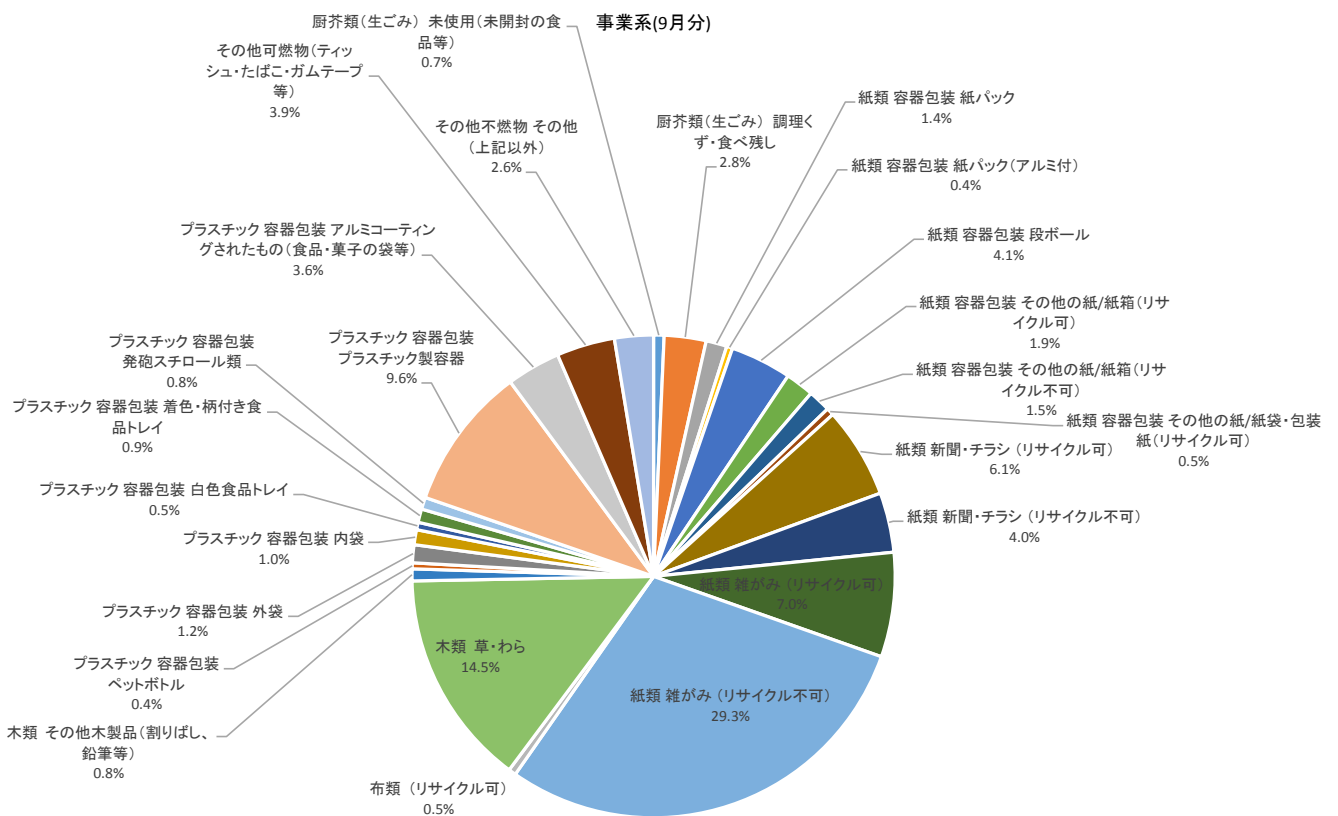
家庭系(2月分)



【事業系・8月分】



【事業系・9月分】



【事業系・2月分】

